

2025 年 8 月 25 日

新型コロナウイルスを含めた同時抗原検査の適切な使用について

一般社団法人 日本感染症学会
一般社団法人 日本臨床微生物学会

はじめに

新型コロナウイルス・インフルエンザウイルスの同時検査キットは、複数の検査キットを用いる必要がなく検体採取が 1 回で済み、検査の作業も効率化できて有用性が認められています。しかしながら、必ずしも両方の検査を行う必要がない場合でも同時検査キットが使用される例が認められています。このような状況を踏まえ、適切に検査を実施し医療資源の効率的使用を促進するため、同時検査キットの適切な使用法について学会の考え方を示します。

同時検査キット使用の利便性

COVID-19、インフルエンザのいずれも流行を起こしやすく、発熱、咽頭痛、倦怠感などの症状が類似していることから鑑別は困難であり、いずれも検査によって診断が確定します。COVID-19、インフルエンザのどちらの可能性もある場合、2つの感染症を対象とした検査が必要と思われます。ただし、単独の検査キットを用いて検査を行うと、検体採取は 2 回必要となります。また、2 種類のキットを別々に操作しなければいけないため、操作が煩雑になります。そのため、同時検査キットは検体採取が 1 回で、操作の手間も楽になるため、有用なツールであると思われます。

同時検査キット使用の課題

上記の利便性により、同時検査キットは臨床の現場においてしばしば用いられています。ただし、中には単独の検査キットを用いるべき状況においても同時検査キットが使用されている例が認められます。

その一例として、流行期でない時期の使用があります。COVID-19、インフルエンザいずれも流行を繰り返していますが、その時々によって一方の感染者はほとんど検出されない時期もあります。そのような状況において、発熱患者のスクリーニング目的で同時検査キットを用いることは望ましくありません。

検査キットの適切な使用について

新型コロナウイルスとインフルエンザウイルスいずれも流行が起こっており、医師が両方の

検査が必要と判断される場合は同時検査キットを活用していただくのがよろしいかと思えます。ただし、どちらか一方の患者しかほとんど検出できない時期では、特別な必要性がない場合は単独の検査キットを優先的に使用することが望ましいと考えられます。もし一方の検査キットで陰性だった場合、もう一方の感染症の鑑別が必要と判断されれば、追加でもう一方の検査を実施することで対応は可能です。また、発症 48 時間以降で抗インフルエンザウイルス薬の処方対象外の場合は、周囲への感染など公衆衛生的な判断の必要性が無ければ、新型コロナウイルス感染症単独での検査が望ましいと考えます。

他の同時検査キットについて

新型コロナウイルスと R S ウイルスの同時検査キットも現在、販売されて臨床の現場でも使用されています。これも上記と同様に、両方の同時検査が必要と判断される場合は適切な検査と言えますが、必ずしも積極的に両方を疑っていないにも関わらず、同時検査をスクリーニング目的で使用するのは過剰な検査につながりますので、2 つの疾患の鑑別が必要な症例のみを対象として使用していただく必要があると考えます。